

# 旭化成株式会社（2020年グリーンボンド）

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2023年6月20日

担当者：

Shigeru Ogawa, shigeru.ogawa@sustainalytics.com, (+81) 3 4520 2193

Yukie Osari, yukie.osari@sustainalytics.com, (+81) 3 4520 2192

## はじめに

2020年6月、旭化成株式会社（以下、「旭化成」）は、水力発電設備に関連するプロジェクトへのファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました（5年債100億円、以下「2020年グリーンボンド」）。その調達資金は、2023年3月31日時点で計2件の水力発電所の改修プロジェクトに充当されています。2023年6月、旭化成は、2020年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが旭化成株式会社グリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）で設定された資金使途のクライテリアやレポートングの指標に合致しているかについての評価を、サステナリティクスに委託しました。本レビューは、2022年6月に行ったサステナリティクスによる旭化成の2020年グリーンボンドに対するレビューに続く、3回目のレビューとなります<sup>1</sup>。

## 評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2020年6月から2023年3月の間に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表1に示します。

表1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
再生可能エネルギー	水力発電設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存の貯水なしの流れ込み式の最大出力5MW～20MWの水力発電設備</li> <li>かつ、</li> <li>• 運営面での安全性に係る水準の維持又は改善を行いながら、発電の高効率化、設備寿命の延長を行う目的での改修、改良、メンテナンスの実施及びこれらに関連する作業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水力発電総容量（MW）</li> <li>• 改修された水力発電設備の発電容量（MW）</li> <li>• CO<sub>2</sub> 排出削減量（ton/CO<sub>2</sub>e）</li> </ul>

## 発行体の責任

旭化成は、プロジェクトの概要説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

<sup>1</sup> サステナリティクスによる旭化成の2020年グリーンボンドの過去のアニュアルレビューはこちらよりご覧頂けます。  
 アニュアルレビュー（2022年6月）：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/asahi-kasei-corp.-green-bond-2020-annual-review-\(2022\)-japanese.pdf?sfvrsn=e6121513\\_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/asahi-kasei-corp.-green-bond-2020-annual-review-(2022)-japanese.pdf?sfvrsn=e6121513_1)  
 アニュアルレビュー（2021年6月）：[https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/asahi-kasei-corp.-green-bond-annual-review-\(japanese\).pdf?sfvrsn=39ef935d\\_1](https://mstar-sustops-cdn-mainwebsite-s3.s3.amazonaws.com/docs/default-source/spos/asahi-kasei-corp.-green-bond-annual-review-(japanese).pdf?sfvrsn=39ef935d_1)

## 独立性と品質管理

投資家に ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界を牽引するサステナリティクスは、旭化成の 2020 年グリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、旭化成の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、適格カテゴリ内の対象プロジェクトに関して 2020 から提示された情報と事実とに依拠しています。旭化成が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果<sup>2</sup>、すべての重要な側面において、旭化成株式会社の 2020 年グリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、旭化成株式会社グリーンボンドフレームワークで規定された資金使途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められません。旭化成は、サステナリティクスに対し、2020 年グリーンボンドの調達資金が 2023 年 3 月 31 日時点で全額充当されていたことを開示しました。

## 調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

評価基準	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途 クライテリア	2020 年 6 月から 2023 年 3 月の間に、2020 年グリーンボンドの調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表 1 に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティング クライテリア	2020 年 6 月から 2023 年 3 月の間に、2020 年グリーンボンドの調達資金が充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表 1 に示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証。	審査したプロジェクトにおいて、フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標が報告されていました。	該当なし

<sup>2</sup> サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

## 参考資料

### 参考資料 1：グリーンボンドの調達資金の充当状況及びインパクト

調達資金の 使途の カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェ クト数 <sup>3</sup>	インパクト指標 <sup>4</sup>		調達資金の 充当額 (億円)
			改修後 水力発電設備 発電容量 (MW)	CO <sub>2</sub> 排出削減量 (ton-CO <sub>2</sub> ) <sup>5</sup>	
再生可能 エネルギー	水力発電	2	19.5	23,000	100
<b>調達資金の充当額合計：</b>					100
<b>グリーンボンド発行による調達資金の手取り額合計：</b>					100
<b>調達資金の未充当額合計：</b>					0

<sup>3</sup> 資金使途となった発電設備は、旭化成が所有する五ヶ瀬川発電所及び馬見原発電所です。サステナリティクスは、当該発電設備が既存の貯水なしの流れ込み式（最大出力 14.5MW 及び 5MW）で、改修工事の目的が、運営面での安全性に係る水準の維持又は改善を行いながら、発電の高効率化、設備寿命の延長を実現することであることを確認しました。

<sup>4</sup> 旭化成によるインパクトレポートは、こちらよりご覧頂けます。：

[https://www.asahi-kasei.com/jp/sustainability/environment/climate\\_change/#anc-08](https://www.asahi-kasei.com/jp/sustainability/environment/climate_change/#anc-08)

<sup>5</sup> 五ヶ瀬川発電所については、台風の被害により 2022 年 9 月に稼働を停止したため、稼働期間（2022 年 5 月から 9 月）の CO<sub>2</sub> 削減量となります。馬見原発電所については、2023 年 3 月 31 日時点で稼働開始していないため、稼働後の 想定年間 CO<sub>2</sub> 削減量となります。

## 免責事項

© Sustainalytics 2023 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んでではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

日本語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は日本語版が優先されるものとします。

## サステナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。30年以上の間、グローバルな投資家の進化するニーズに応える高品質かつ先進的なソリューションを提供し続けています。その上で、ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、サステナリティクスは、数百に及ぶ企業や金融仲介業者と協働してサステナビリティに関連する方針、実務、資金調達を検討を支援しています。サステナリティクスは、世界17カ所にオフィスを構え、40以上の産業グループにまたがる様々な分野の専門知識を持つ500人以上のアナリストを含む、1,500人以上のスタッフを擁しています。

詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照ください。

又は、[contact@sustainalytics.com](mailto:contact@sustainalytics.com) にご連絡ください。

